

中東欧からみたロシア-脅威かパートナーか

一橋大学政策フォーラム(2018年1月19日)

「経済制裁下プーチンのロシア」

於TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター

仙石 学

(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)

今日の概要

1. イントロダクション—中東欧の現況
2. ロシアの対中東欧政策—水面下の「巻き返し」？
3. 中東欧の対ロシア政策—「強硬派」対「現実派」？
4. EUとロシアの狭間で—「新たな前線」の形成？

1. イントロダクションー「中東欧」について

地域の呼称ー統一されたものはない

- ・ 東欧ーソ連以外の旧社会主義国
(ただしバルト諸国を含む)
- ・ 中東欧ー上の中で2004年に
EUに加盟した8カ国
- ・ 南東欧ーバルカン諸国、ただし
EU加盟国は中東欧とする場合も



今日はEU/NATO両方に加盟する11カ国を
広い意味で「中東欧」として議論

○中東欧諸国－1990年前後に「体制転換」を経験

- 社会主義体制 = 共産党独裁 + 国家管理経済
経済的には一定の成功 = 近代化・工業化を実現
他方で生活・教育水準上昇 → 政治不満が拡大
- 体制転換 = 社会主義体制から異なる体制への転換
中東欧は民主主義と市場経済に依拠する体制に
だが経済及び安全保障で不安定な状況
→ EUおよびNATOへの加盟を追求
- 最終的にすべての国がEU/NATOに加盟
= 「二重の安全保障」を獲得？

○現在の中東欧諸国ー

- ・ 人口動態ー社会主義期以来の少子化の進展 + 21世紀に入ってから平均余命の伸び→ 少子高齢化が急速に進展(日本の状況に類似)
- ・ 経済状況ー国による相違の広がり
 - 1)チェコ・スロヴァキア・スロヴェニア・ハンガリーー 経済は比較的堅調、国内の格差・貧困も小さい
 - 2)バルト諸国とポーランド 経済は堅調だが、国内の格差・貧困が大きい
 - 3)クロアチア・ブルガリア・ルーマニア 経済変革が進まず社会状況も停滞 (クロアチアはやや回復?)

中東欧諸国の概要 1 —国土と人々(2016年)

	面積 (万km ²)	人口 (万人)	出生率 (2015)	平均寿命 (2015)	高齢化率 (%)	主な宗教
ポーランド	31.3(6)	3709(6)	1.32(27)	77.5(20)	21.2(24)	カトリック
チェコ	7.9(15)	1055(11)	1.57(12)	78.7(18)	23.1(24)	無宗教 カトリック
ハンガリー	9.3(12)	983(14)	1.45(18)	75.7(23)	27.2(22)	カトリック プロテスタント
スロヴァキア	4.9(20)	542(19)	1.40(20)	76.7(22)	20.6(26)	カトリック
リトアニア	6.5(17)	288(22)	1.70(8)	74.5(28)	28.6(13)	カトリック
ラトヴィア	6.4(18)	196(24)	1.70(7)	74.8(26)	30.2(8)	プロテスタント・ カトリック
エストニア	4.5(21)	131(25)	1.58(10)	78.0(19)	29.3(11)	プロテスタント・ ロシア正教
スロヴェニア	2.0(25)	206(23)	1.57(12)	80.9(15)	27.6(20)	カトリック
クロアチア	5.7(19)	472(21)	1.40(20)	77.5(20)	29.0(12)	カトリック・ セルビア正教
ブルガリア	11.1(11)	715(16)	1.53(14)	74.7(27)	31.1(7)	ブルガリア正教
ルーマニア	23.9(9)	1971(7)	1.58(10)	75.0(24)	25.9(23)	ルーマニア正教・ カトリック

中東欧諸国の概要 2 — 経済と生活(2016年)

	通貨	GDP (億€)	1人当 GDP(€)*	失業率 (%)	ジニ係数 (2015)	移転後貧困 率(%、2015)
ポーランド	ズウォチ	4259(8)	10100(23)	6.2(10)	30.6(17)	17.6(18)
チェコ	チェコ・ コルナ	1765(15)	14200(18)	4.0(1)	25.0(3)	9.7(1)
ハンガリー	フォリント	1137(19)	9900 (25)	5.1(5)	28.2(11)	14.9(10)
スロヴァキア	ユーロ	812(20)	13300(20)	9.7(21)	23.7(1)	12.3(4)
リトアニア	ユーロ	387(24)	11700(21)	7.9(16)	37.9(28)	22.2(26)
ラトヴィア	ユーロ	249(25)	11600(22)	9.6(20)	25.4(25)	22.5(27)
エストニア	ユーロ	211(26)	13900(19)	6.8(12)	34.8(24)	21.6(23)
スロヴェニア	ユーロ	404(23)	17100(16)	8.0(17)	24.5(2)	14.3(8)
クロアチア	クーナ	463(22)	10100(23)	13.4(26)	30.4(16)	20.0(21)
ブルガリア	レイ	482(21)	7100(26)	7.6(13)	37.0(26)	22.0(24)
ルーマニア	レイ	1696(17)	5500(27)	5.9(6)	37.4(27)	25.4(28) ⁷

* 2013年のデータ。この年のギリシャのデータが欠落しているため、順位は27位まで。

2.ロシアの対中東欧政策—水面下の「巻き返し」？

○ロシアの旧ソ連諸国への拡張

きっかけは「南オセチア紛争」(2008)

ロシア・グルジア(ジョージア)双方が正当性を主張

この紛争を契機に2地域が
ロシアの支援により「独立」

- ・ 南オセチア
- ・ アブハジア



○ロシアの「拡張」—2008年以降本格的に

- 軍管区の再編—欧州に対する西部軍管区に兵力を集中
(2008年秋)
- 軍備費の増額—2008年から13年で1.3倍に
これにより兵器・兵站整備と軍事産業近代化推進
- 短距離弾道ミサイル「イスカンデル」の国境および
カリーニングラードへの配備
- NATO侵攻を想定したベラルーシとの共同軍事演習
- クリミア併合＋
ウクライナ東部での戦闘





○ロシアの「介入」の可能性 = 国境を接する諸国に脅威
(1975年の「ヘルシンキ宣言」の実質的放棄)

"Compatriot Policy"

ロシアは海外のロシア人、およびロシア語話者の利益を
政治的・外交的・法的手段で守ると言明
ウクライナ介入 = これに軍事的手段が加わることを示す

特に脆弱なのがエストニア・ラトヴィア

- ・ロシアの本土と直接隣接
- ・両国ともロシア系住民を多数抱える = 介入の口実
(エストニア約25%、ラトヴィア約30%)
→ グルジア危機以来リトアニア・ポーランドと共に
ロシアを非難しグルジア・ウクライナを支持
EU/NATOの積極的関与も要請

○ロシアの攻勢—西側への対抗と「勢力圏」形成への動き？

- NATO/EUの拡大 =

 - NATO=1999年に3カ国、2004年に7カ国

 - 2009年に2カ国、2017年に1カ国

 - EU=2004年に8カ国、2007年2カ国、2013年1カ国

 - さらに欧州近隣政策の一環としての

 - 「東方パートナーシップ」の推進

 - ☆ドイツ統一の際の「不拡大」が反故にされたとの認識

- 価値・世界観の対立 =

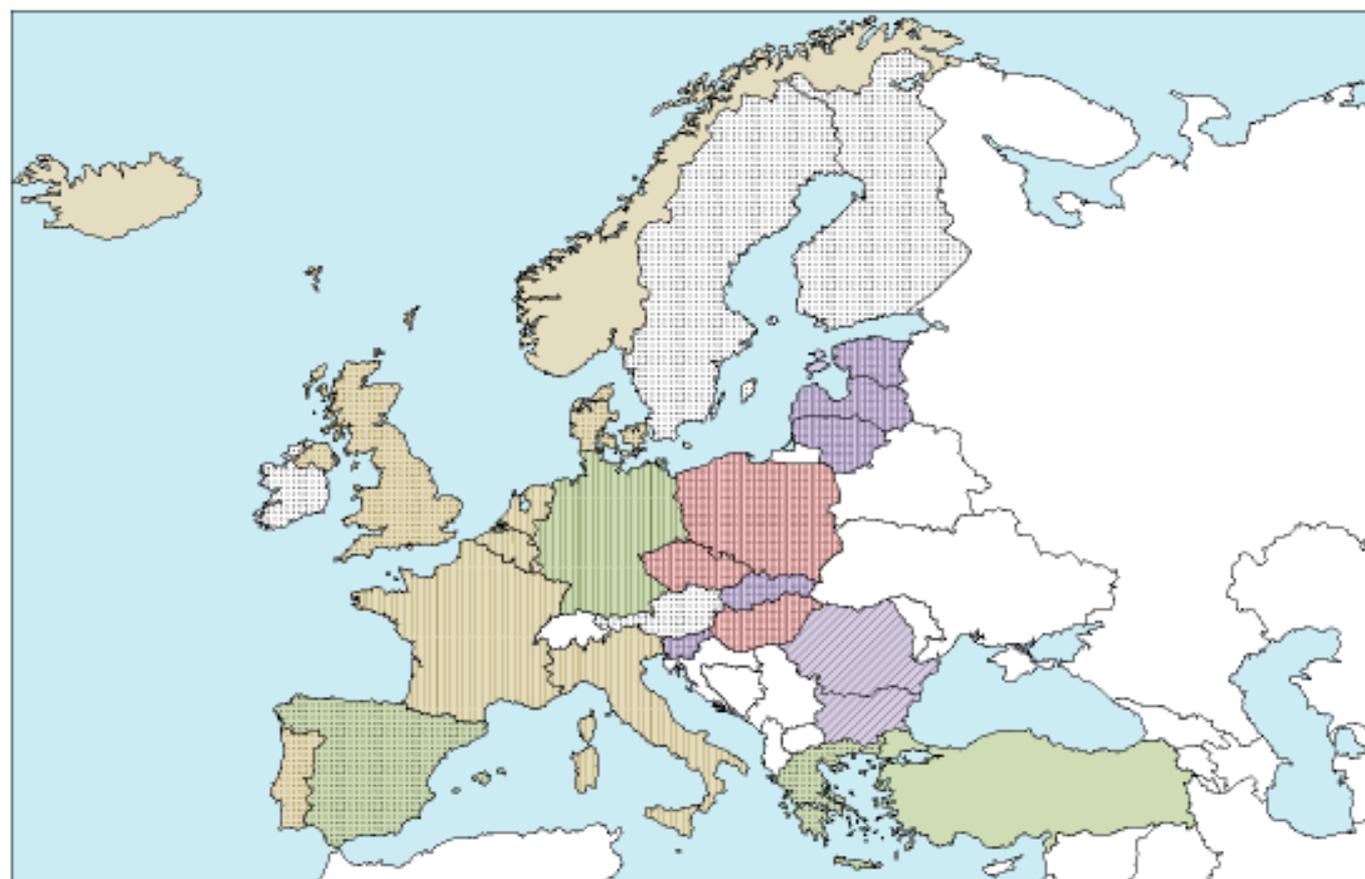
 - EU拡大は西欧的リベラル価値の強制→

 - 国民・家族・宗教など西欧と異なる価値を強調

 - ウェストファリア型国際秩序の追求—

 - 多元的国際政治と「勢力圏」の相互承認

図表 1-2-8-3 NATOとEU加盟国の拡大状況



EU原加盟国 95年までにEUに加盟 04年5月、EU加盟 07年1月、EU加盟
NATO原加盟国 82年までにNATO加盟 99年にNATO加盟 04年3月、NATO加盟

(注) 本年4月のNATO首脳会合において、アルバニアとクロアチアのNATO加盟招請が決定されている（今後批准などの手続を経て正式加盟）。

○ロシアの攻勢—EUの「弱さ」も作用

- ・ロシアへの対応が一枚岩でない→対応に遅れ

独仏伊 = 大国でロシアと単独で交渉が可能
歴史的経緯で、ロシアと特別な関係を有する
→グルジア・ウクライナいずれも対応は遅い
実は東方パートナーシップにも消極的
イギリス = 対応できる状態にない
スペイン = そもそも関心が弱い

中東欧 = 実はバラバラ
対露強硬路線はポーランドとバルト諸国
他方で「ロシア寄り」の国も多い
このような状況について次に検討

3. 中東欧の対ロシア政策—「強硬派」対「現実派」？

○中東欧諸国のロシアへの対応—2つのパターン(Kurečić)

- New cold warriors:

ポーランド・バルト諸国・クロアチア・ルーマニア

- Pragmatics:

スロヴァキア・スロヴェニア・ハンガリー・
チェコ・ブルガリア

○なぜ対応が分かれるのか

1) 地政的要因

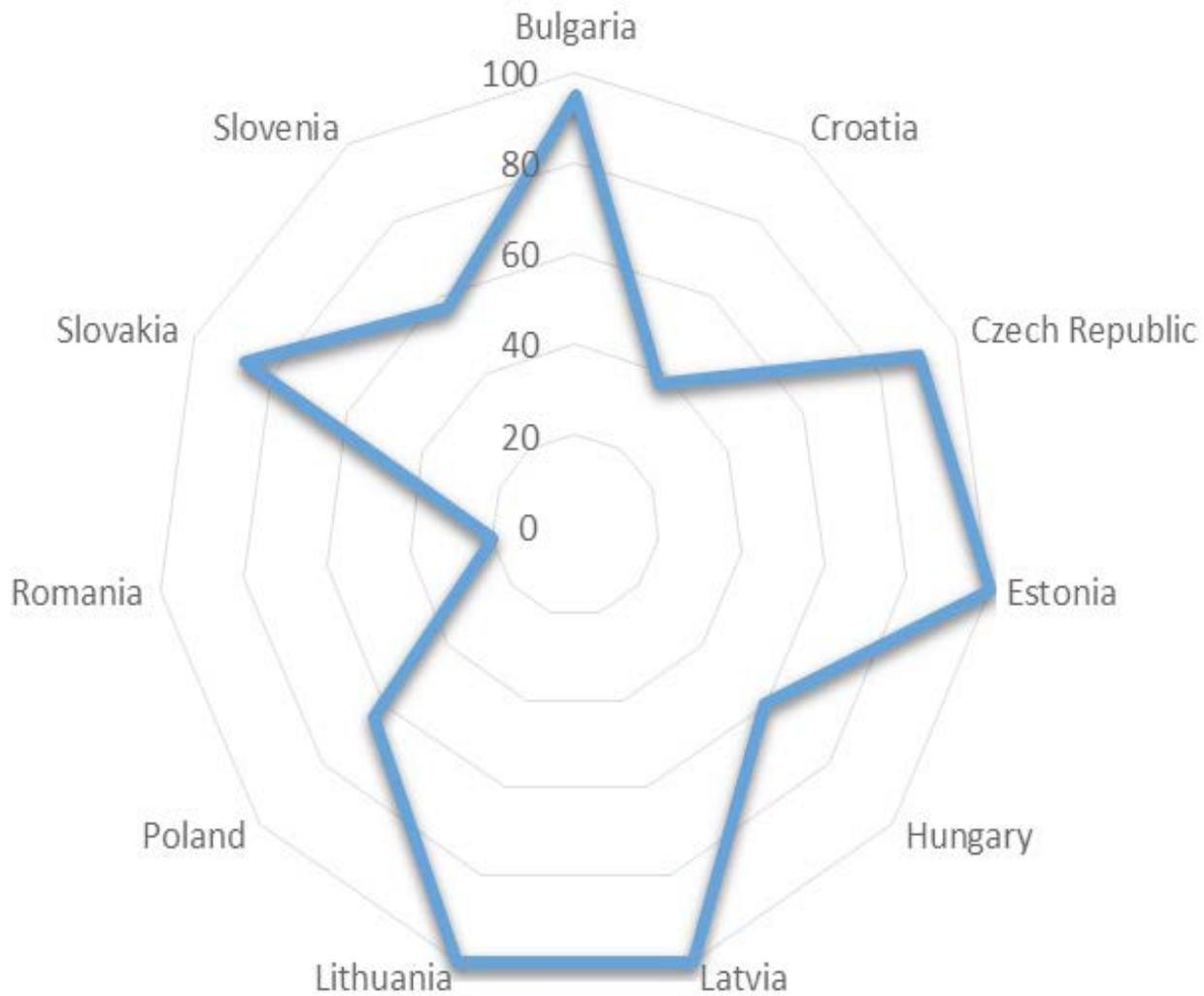
- New cold warriors—ロシアに対する脅威感の存在
 - ポーランド・バルト諸国 = 直接的な脅威
 - NATOの積極的な関与を求めるが独仏伊は消極的
 - ルーマニア = 沿ドニエストル問題でロシアに不信
 - アメリカの迎撃ミサイル配備を受け入れ
 - クロアチア = セルビアとロシアの結びつきに脅威感
 - セルビアへの対抗から西側に接近
- Pragmatics—直接的な脅威の欠如
 - 経済的な損失を重視し、対ロシア制裁にも反対
 - 特にハンガリー・スロヴァキアは親露的

○なぜ対応が分かれるのか

2) 政治経済的要因

- Pragmatics—ロシアとの経済的関係を重視
反ロシア感情の弱さ→ロシアをパートナーと認識
国内における「親ロシア派」の存在
政治・ビジネスにおける「ロシアの影響」の浸透
- New cold warriors—ロシアへの依存回避を追求
反ロシア感情の強さ→多角的関係を追求
バルト諸国＝ロシアにある程度依存
(エネルギー・中継貿易など)
→ユーロ導入を「安全保障」としても急ぐことに17

中東欧諸国のロシアの天然ガスに対する依存度



○Pragmaticsが現れる背景—

「ロシアの中東欧への政治的・経済的浸透」の存在
(*The Kremlin Playbook*<米CSIS>)

1)政治的浸透 = 社会の凝集性を弱め内部の緊張を高める

- ・ ナショナリスト、欧州懐疑派、極右などの利用
ロシアの非リベラル「主権民主主義」をモデル化
特に近年のポピュリズム = 反EUと親和性
極右政党やポピュリスト政党をロシアが支援
- ・ 情報戦争—反西欧派を支援し欧州の信頼を弱める
メディアやロシア正教会の利用
- ・ 親露的な「ビジネスマン政治家」の利用
ex.ロシアItera社子会社のItera Latvija CEOの
Juris Savickis = ラトヴィアの天然ガス自由化に反対

親露的な政党・政治家の例

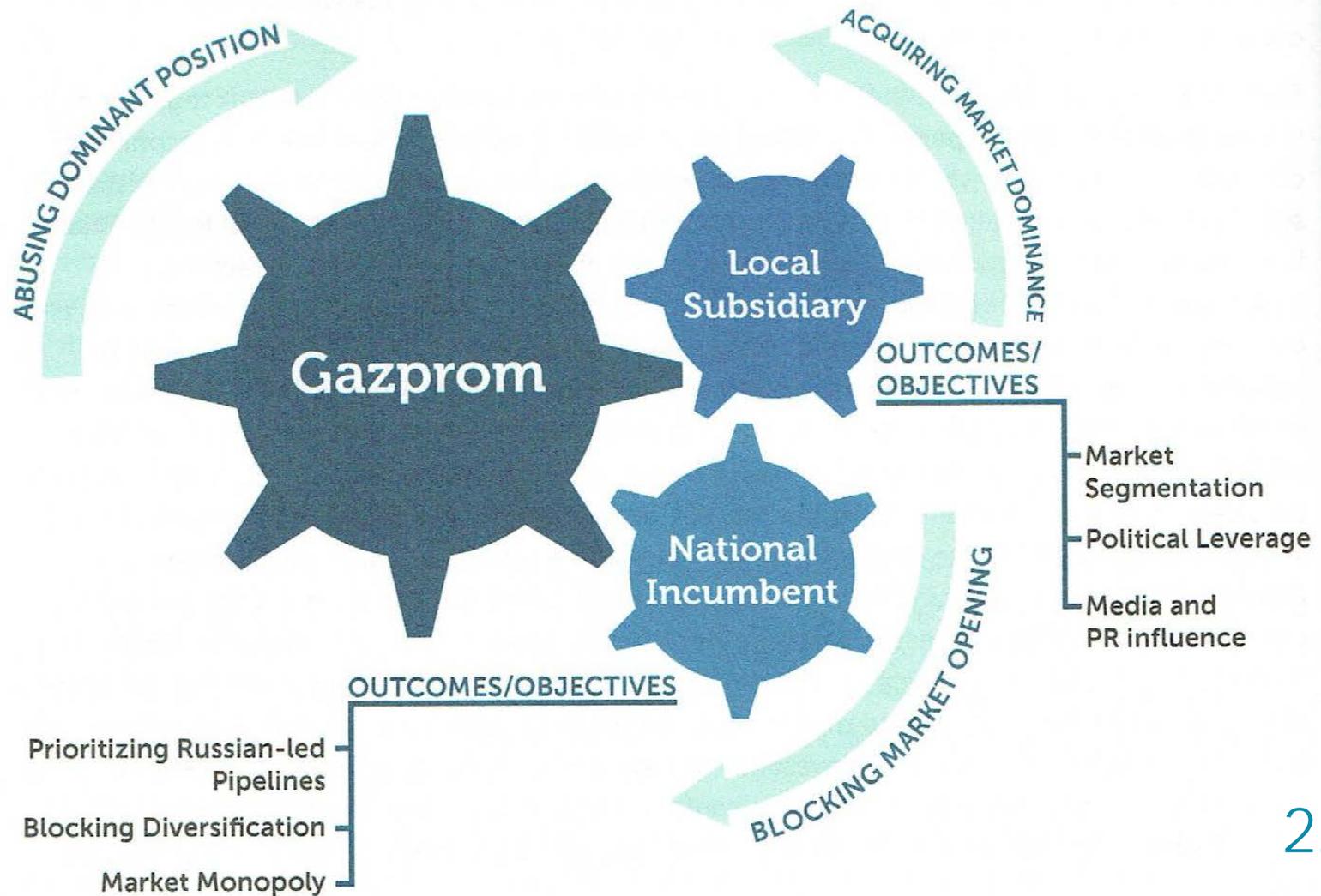
- ・ハンガリー＝
極右政党Jobbik—ロシアから資金援助の噂
欧州議会メンバーBela Kovacsがロシアのスパイ嫌疑
クリミア・ドネツクの選挙に監視団派遣
与党FIDESZ—
オルバーン首相が政権獲得後に親露化
EUの制裁を批判しRosatomから原子炉を購入
- ・スロヴァキア＝
与党SMER-SD—
首相フィツォと周辺がロシアとビジネス関係
右派政党SNS—親露・反NATOでロシアから支援
- ・ラトヴィア＝
社民政党Saskaņa—統一ロシアとパートナー関係
党首でリガ市長のウシャコフスは対露制裁に反対

2) 経済的浸透 = 分野別市場操作・戦略的セクター支配

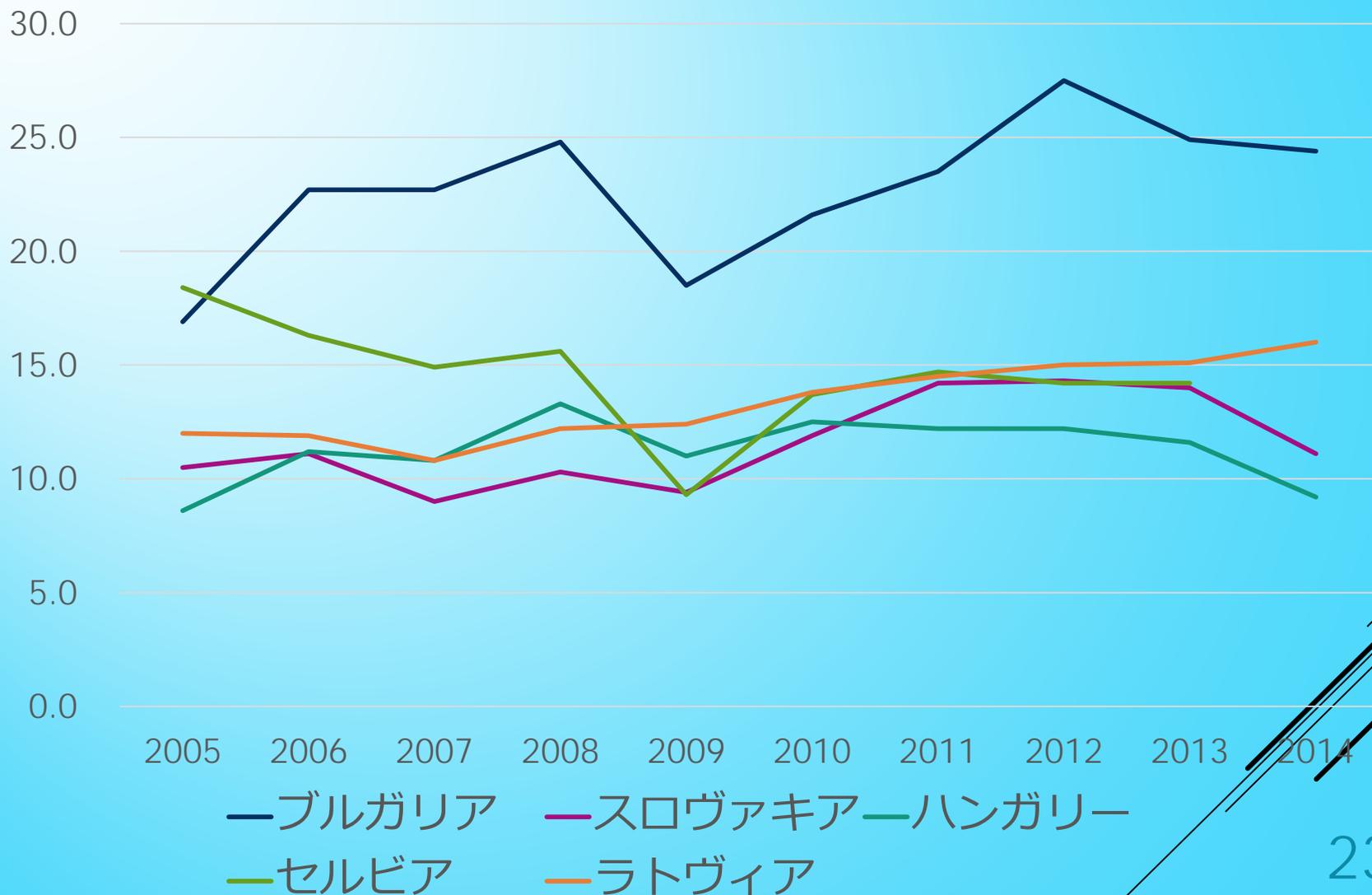
- 直接投資の増大
 - エネルギー・金融・メディア・通信・製造業など
 - ロシアの投資実態を見えなくする手法も
 - ex.ブルガリアのLukoil—登記がオランダ
 - 直接投資を政策手段として利用
- 戦略的セクターの支配
 - 相手国の依存と自国の独占を利用
 - 特にブルガリア—Gazprom/Rosatom/Lukoil
 - これをブルガリアとEUでの利益追求に利用
- Local affiliates/brokersの利用
 - ロシアビジネスに取り込み利益供与
 - 官僚・政治家を巻き込む腐敗ネットワーク形成

ロシアの経済的浸透の構造

Figure 3.1. Exploiting Economic Governance Deficiencies



GDPにおけるロシアの影響(CSIS推定)



- ロシアの政治的・経済的浸透
 - 制度の脆弱性を利用しつつ拡大
 - 経済的利益とEU/NATOの分断・弱体化を追求
 - 一部の国においては成果
 - EUおよび中東欧における分断の形成に成功
- 経済制裁の影響—中東欧への浸透という点では限定的
 - 制裁は主に貿易や渡航禁止・資産凍結など
 - EU内の資本起債・流通市場への参加制限はあるが
 - 影響は大きくない
 - 偽装会社やローカルパートナーの利用
 - Pragmatics諸国はそもそも制裁に反対か消極的

4. EUとロシアの狭間で—「新たな前線」の形成？

○「新たな前線」としての中東欧？(Orenstein)

中東欧—単独で立場を維持することは困難

その存続にはNATOの支援が不可欠

→ロシアがエネルギーと資産をテコに浸透の試み

結果として「親露国」と「反露国」の対立形成

☆ただしこの「二分類」は単純ではない

ポーランドのポピュリスト政権 = 反EU/反移民・難民

ハンガリーやスロヴァキアと連携を強める

ただし「親露」には向かわない =

ロシアがこれを取り込むのは困難？

対立の様相も複雑化？